

# 青木蔵男さん

1923(大正 12)年 5 月 4 日生

海軍

横須賀海軍航空隊、

第 6 海軍航空隊

(のちに第 204 海軍航空隊に改称)など

ラバウルなど



私は昭和13年6月、少年航空兵として海軍に入隊しました。横須賀海兵団で海軍軍人として基礎訓練を受け海軍通信学校に入りモールス信号の送受信一分間八十字以上の技量を習得しました。引き続き鈴鹿海軍航空隊で偵察員としての教育を受け昭和16年4月に総ての教育訓練を終了し横須賀航空隊に配属になりました。その時の飛行時間230時間、通信士としては一人前でした。

昭和16年12月3日、サイパンを經由して南鳥島に進駐。任務はハワイ攻撃をした連合艦隊に対して米海軍の追撃を想定し、雷撃、爆撃装備をした九六陸攻十二機での哨戒でした。八時間程度の哨戒を実施しましたが、米艦隊の追撃がなかったので12月21日横空に帰隊しました。

哨戒時に勝利して帰途についていた艦隊上空でバンクをし、艦上から手を振ってくれたことは忘れられません。

昭和17年10月ごろ、ラバウルの部隊に移動、配属された輸送機の偵察員になりました。

昭和18年4月18日、聯合艦隊山本五十六司令長官が機上戦死した際、長官機に同乗できなかった21航空戦隊司令官山口少将を乗せ、長官機出発30分後ラバウルから単機でブインに向けて飛び立ちました。ブインには私の飛行機が先着した。間もなくして長官機の事故を知って基地ではその対応に混乱を生じていたようでした。数時間経過した頃、長官機の生存者を乗せラバウルに帰投。任務終了時、搭乗員整列がありこの事件の内容を口外してはならないと厳達されました。

その後、第十一航空艦隊、技術廠実験部などを経て三沢基地で終戦を迎えました。

終戦後の昭和20年8月29日、三沢基地から横須賀航空隊まで白色緑十字機で、大湊の参謀長を同乗させてマッカーサーが進駐する前日に飛びました。

眼下の都市がB29の無差別爆撃でほとんど焼けているのを見て、負けたなあと思いました。

終戦時の飛行時間2200時間、階級は海軍飛行兵曹長でした。同時に入隊した戦友は終戦時に生存していたのは一割。多くの戦友は戦死。戦後生存者の会合を持続してきましたが、現在私一人になってしまいました。

(2015年9月20日 あの戦場体験を語り継ぐ集いより)